



人形浄瑠璃 (飯田市 黒田人形座)



名勝 天龍峡 (飯田市川路・龍江)



天下の奇祭 鬼祭 (豊橋市 安久美神戸神社)



西浦の田楽 (浜松市天竜区水窪町奥領家)

街道浪漫

道が織り成す三遠南信



商家「駒屋」(豊橋市三川町字新橋町)



舞阪の松並木 (浜松市西区舞阪町舞阪)



三遠南信地域(愛知県東三河、静岡県遠州、長野県南信州)は、日本のほぼ中心に位置し、自然美・歴史・文化などが詰まった地域です。そんな三遠南信地域をつなぎ、古くから生活の道として、また物流、文化の交流、信仰など人々と密接に関わってきたのが「街道」です。街道が数多く存在するこの地域には、人々が盛んに往来していた証(あかし)が今も随所に残っています。

現在では、道路や鉄道の交通網も発達し、東名高速道路やJR飯田線などの大動脈に加え、三遠南信自動車道・新東名高速道路の全線開通などが予定され、地域連携の強化や住民交流の進展がますます期待されています。時代の流れとともに姿を変えながらも、地域と地域を結ぶために発展し、語り継がれていく街道。さあ、あなたも道がたぐなく三遠南信の今昔を訪ね歩いてみませんか。

豊橋・浜松・飯田3市合同企画
問い合わせ 広報広聴課 (☎51・2164)



姫街道



①豪華絢爛 姫様道中

江戸時代の豪華絢爛な姫様行列を再現した、昭和27年から続く伝統行事。都田川の土手に咲き誇る桜のもと、約100人の大名行列のほか、姫様や腰元による艶やかな手踊りなどが披露され、多くの見物客でにぎわいます。

とき:4月2日(土)・3日(日) ところ:浜松市北区細江町気賀

②象も鳴いた!? 象鳴き坂

引佐峠(浜松市北区細江町-三ヶ日町の境)西側にある坂道の名称。享保14(1729)年、清国の商人が献上した象が、江戸へ送られる途中この坂を通り、余りにも急なため、苦しくて悲鳴を上げたという伝承から、この名が付けられました。近くにある峠「小引佐」からの眺望も見事です。



東西の主要都市をつなぐ道「東海道」と「姫街道」

今から約1300年前の奈良時代に、浜名湖の南と北を通る国道として整備されたのが東海道と姫街道の始まりです。

江戸時代、幕府により南ルート(東海道)が正式な街道として整備されました。しかし、浜名湖の今切が天災などにより通行不能となる恐れがあったため、北ルート(姫街道)にも関所や本陣が設置され、脇往還として機能していました。江戸時代後期には、

伝統の味 みそまん

奥浜名湖の名物として親しまれている「みそまん」は、奥山半僧坊への参詣者や姫街道の旅人の土産として広まったという説があります。

新街道スポット

北区の引佐、細江、三ヶ日にある各店で自慢のみそまんを1個ずつ、全12種類を味わえる「奥浜名湖みそまん物語」は、イベント会場などで購入できます。詳細は、[奥浜名湖観光協会](#)

■販売予定のイベント

北区 De まつり 2016 とき:3月6日(日) ところ:都田総合公園(浜松市北区新都田) ※4月2日(土)・3日(日)開催の姫様道中でも販売予定



④TKD(東海道)57総選挙で1位! 二川宿(豊橋市二川町字中町)

東海道の人気宿場町の選挙で昨年、1位に輝いた二川宿。江戸から33番目の宿場町として、歴史的な建物や当時の町割りが残っています。昨年11月、商家「駒屋」が完成し、大名の宿「本陣」、庶民の宿「旅籠屋」とあわせて3つの施設を見学できる日本で唯一の宿場町となりました。



③東海道で唯一現存する 脇本陣遺構 舞坂宿脇本陣(浜松市西区舞阪町舞阪)

脇本陣とは、大名の宿「本陣」の利用が重なる時や、参勤交代などで宿泊客が多い時などにその代わりとして機能した施設。建物の一部には、江戸時代のものがそのまま使用されています(浜松市指定文化財)。



街道 マメ知識 遊び「凧揚げ」を通じた交流

古くは、貴族など一部の階級の遊びとして、また武士の気象観測や通信などの目的で行われていたとされる凧揚げ。江戸時代には、正月の遊びや端午の節句のお祝いとして民衆の間に広がっていきました。豊橋や浜松でも三河湾や遠州灘からの強い風が吹く絶好の場所であったことから、凧揚げが盛んに行われていました。現在でも、初子の誕生を祝う「浜松まつり」や、豊橋・浜松など各地の凧仲間と交流を深める「全国凧揚げ大会」など、凧揚げを通じた文化や行事が続いています。



東海道

浜松市文化財課 石野めぐみさん

姫街道 東海道



新街道 スポット

奥三河の味を堪能 もっくる新城

新東名高速道路新城ICと国道151号新城バイパスとの結節点に位置する道の駅「もっくる新城」(新城市八束穂五反田329-7)は、奥三河の木材をふんだんに使った施設です。イノシシの骨からとるダシを使った「ししラーメン」(右下)、鹿肉カレーといった野生鳥獣の肉を使う「ジビエ料理」のほか、一日限定10食の特大五平餅(左下)や50cmもあるロールケーキなどが人気です。



⑤7年に一度の大祭 飯田お練りまつり

南信州の各地域に伝わる獅子舞・太鼓・踊りなどの伝統芸能を一度に見ることができる式年大祭です。目玉イベントとして「大名行列」(左上)や「東野大獅子」(右上)があります。

とき: 3月25日(金)~27日(日) と
ところ: 飯田市街地

遠州街道



遠州街 別所街道

海と山の文化・伝統をつなぐ道「別所街道」と「遠州街道」

別所街道・遠州街道は、塩・のり・魚などが陸を通過して北上し、材木や紙・たばこ・繭などが豊川を通過して舟で南下するという、舟運と陸運が並行して連結する、物流が基幹の「産業の道」でした。それに伴い、旅人の往来が盛んになり、伊勢・熊野の信仰や湯治を目的とした交流により上方の文化が伝わり、独自の祭りがより豊かなものになっていきました。今でも祭事が多く残るこの地区は

「まつり街道」とも呼ばれ、街道沿いの芸能を広く紹介する上で、「情報の道」ともいえるでしょう。また、日本海側より太平洋側に近い南信州は、風土習慣も三河に類似したものが数多く伝えられています。沿岸部と山間部といった環境の違い、そして祭りや温泉など、互いが知り得なかった物事が、道を通してつながったからこそ触れられる文化や伝統などが、この街道にはあります。

街道 マメ知識

共通点は火の粉と心意気!

長野県下伊那郡阿智村清内路に伝わる「手作り花火」(右下)と、愛知県豊橋市に伝わる「手筒花火」(左)。清内路では300年、豊橋市は450年以上と長い歴史を重ねており、どちらも火の粉をあびながら奉納する花火です。清内路の手作り花火は、江戸時代に村の特産物であったたばこと木櫛の行商で三河地方を訪れた村人が、たばこと引き替えに火薬製造の秘伝を伝授してきたことが原点とされています。各地とも、花火の製造や美しさを競う心、揚げる人々の心意気などは途絶えることなく今に続いています。



別所街道



⑦水上の生活道路 牛川の渡し船 (豊橋市牛川町~大村町)

豊川の両岸を結ぶ渡し船として運行する全国的に数少ない市営の渡し船。牛川には平安時代からあったと伝えられており、現在も通勤・通学など市民の足として運行しています。竹竿を使って人力で船を操る懐かしい雰囲気を楽しめます。

※土地区画整理事業に伴う工事のため、現在は、本来の航路から約400m下流に整備した仮航路で運航

⑥縁起担ぎに!

五角(合格)形の次郎柿

豊橋市は次郎柿の一大産地。収穫期ともなると、県道81号沿い一帯の柿畑は「柿の木街道」(豊橋市石巻地区)と呼ばれるほど柿色に染まります。形が五角形で、「合格」とかけた験担ぎになるとか!? 南信州特産の市田柿と食べ比べてみてはいかがでしょうか。



二川宿本陣資料館
学芸員 和田実





飯田市文化財審議委員会 針間道夫さん

⑨「綱」に賭けた熱い戦い 峠の綱引き国盗り合戦

毎年10月の第4日曜日、長野と静岡の県境をかけ、兵越峠で綱引きが行われます。信州軍は飯田市南信濃、遠州軍は静岡県浜松市天竜区水窪町から、両市の商工会青年部の精鋭が対戦し、勝った方が1m県境を相手方に移動できるユニークな村おこし行事です。



⑧小川路峠と上町宿(飯田市上村)

小川路峠は、飯田と遠山谷を結ぶ秋葉街道上の峠です。かつて峠から谷を見下ろした警察官や教師などの転勤者が、その地形の厳しさ故に赴任を諦めたことから、別名「辞職峠」ともいわれました。上町宿は小川路峠の麓の宿場町として栄え、江戸時代後期の町並みと多くの伝統行事が今も残っています。

神と人が行き交う古の道「秋葉街道」と「遠山郷」

秋葉街道は、信州で産出した黒曜石の鑛が遠州の遺跡で出土していることから、縄文時代には交易路が確立されていたと考えられています。戦国時代には、武田信玄が覇権を目指す道として重要視し、江戸時代には火防の神・秋葉神社へ通じる信仰の道として大いににぎわいました。その街道筋にある遠山郷は、秋葉参詣の往来

人や交易の品々にぎわうとともに、この地の有力な資源である木材を川流しにより二俣(浜松市天竜区)経由で江戸に運び、隆盛を極めました。その後、鉄道の開通、自動車の普及などにより、時代とともに秋葉街道や遠山郷のようすは変わりましたが、三遠南信自動車道の整備が進み、ますます盛んな交流に期待が膨らみます。

- //////// 秋葉街道
- 国道152号
- ~~~~~ 三遠南信自動車道(開通予定)

秋葉街道



街道 マメ知識

南信州で海の名物!?



海に面していない南信州ですが、イカやサバ、サンマなどの海産物が郷土食材となっています。かつては、海産物を新鮮な状態で内地まで運べなかったため、保存に適した塩サバ・塩サンマ・塩イカなどとして馬で信州まで運ばれてきました。これらは、独自の郷土食として受け継がれ、夏には塩イカときゅうりの粕もみが食事やお茶請けとして、秋には祭りで神社に鯖鮓(左:飯田市伊豆木八幡神社)

が奉納され、冬には遠山の霜月祭の際に、多くの神社でサンマ飯が氏子に振る舞われます。塩や昆布、干物などを信州にもたらした秋葉街道は、「塩の道」ともいわれています。



⑩古くから信仰を集めた秋葉山(浜松市天竜区春野町領家)

古来、火防の神として信仰され、多くの参詣者や修験者が足を運んだ秋葉山。現在は、中腹に秋葉寺、山頂に秋葉山本宮秋葉神社があり、秋葉神社からは、空気が澄んでいれば天竜川河口や太平洋、浜名湖まで望むことができます。また、市内には常夜燈(道標や信仰・地域の安全祈願として建てられた灯籠)が数多く残され、その信仰の厚さを物語っています。

塩の道ならではの! かぐらの湯

新街道 スポット

国道152号沿いにある「かぐらの湯」(飯田市南信濃和田456)は、塩分を多く含む温泉でなめると塩の味がします。なぜ、海から離れた南アルプスの麓でこのような成分が出るのかは大きな謎です。保温効果が高く、地元産の杉や檜の香りただよう温泉です。四季折々の山を眺めながらお楽しみください。

